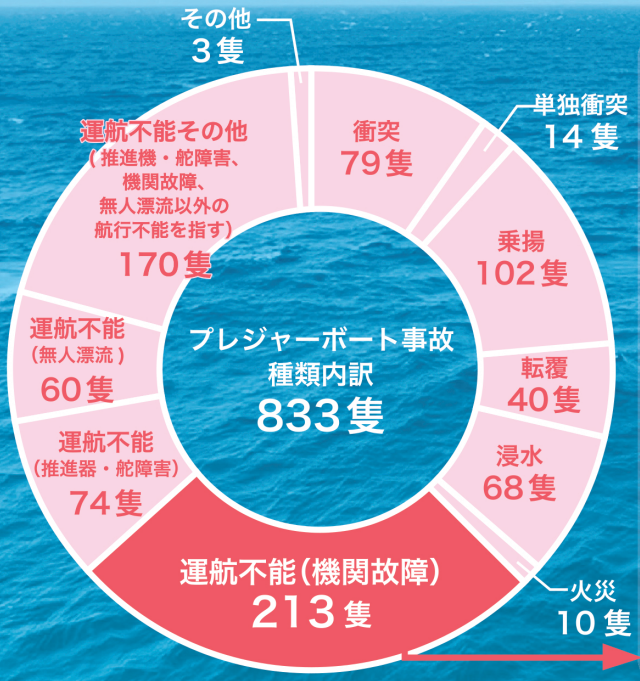
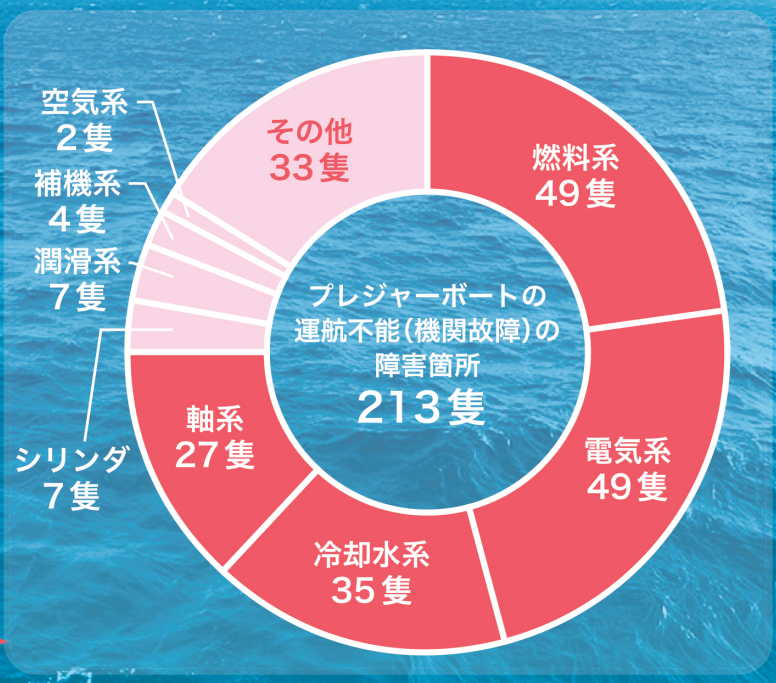
プレジャーボートの安全運航のために

プレジャーボート海難のおよそ３分の１が機関故障によるものです。

プレジャーボート海難発生状況（令和７年）
合計833隻
海上保安庁資料（令和７年）より

機関故障は定期的なメンテナンス、発航前検査で防ぐことが可能です。





海難はプレジャーボートが全体の49%を占めています。プレジャーボートの海難の39%が故障や点検不足によるものです。これらは**メインテナンスや発航前検査**で十分に防止が可能です。

※機関故障によって軽微な海難が発生した場合でも、救助を受けると多くの時間とお金を浪費する可能性があります。

- ATTENTION 01 ▶ 中古艇は特に整備が重要です。
- ATTENTION 02 ▶ 定期的なメインテナンス、発航前検査を実施しましょう。
- ATTENTION 03 ▶ 整備は機関メーカー指定の業者に依頼しましょう。
- ATTENTION 04 ▶ 発航前検査の義務違反は行政処分の対象となります。

プレジャーボートの安全運航のため、以下のガイドをご利用ください。

日本小型船舶検査機構

エンジン種類別に、日常的に行っていただきたい点検・整備のポイントをわかりやすくまとめています。

メインテナンスガイド　ＪＣＩ　検索

船内機等　船内機

船外機　船外機

PWC　PWC

日本マリン事業協会

艇体の取扱説明書から、使用（航海）前後の点検の部分を抜粋したものがご覧いただけます。

日本マリン事業協会　検索

使用前後の点検事項

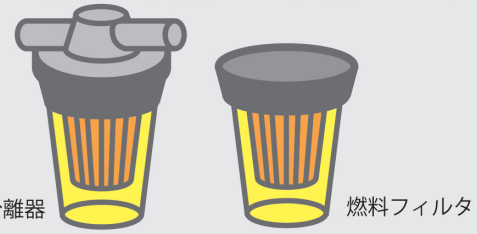
印刷して船内に持ち込み、発航前検査を実施してください。

発航前検査チェックリスト

実際に海難事故に遭ったユーザーに実施したアンケート調査から、多い要因とその注意事項を以下に記します。

燃料系

油水分離器にたまった水や、燃料フィルタの目詰まりに注意しましょう。



燃料の残量を確認しましょう。

燃料計の過信は禁物です。
日頃の燃料消費率、
給油量を把握しましょう。



始動系

バッテリの電圧、液量を点検しましょう。

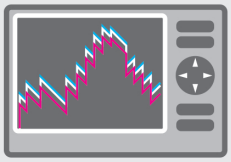
バッテリは定期的に交換しましょう。



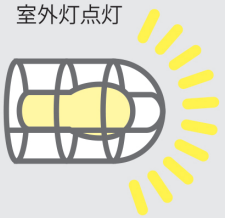
出展元：（一社）電池工業会

主機停止中には電気機器を使用しないようにしましょう。

例：釣り中：魚群探知機使用



例：花火見物中：室内灯、室外灯点灯



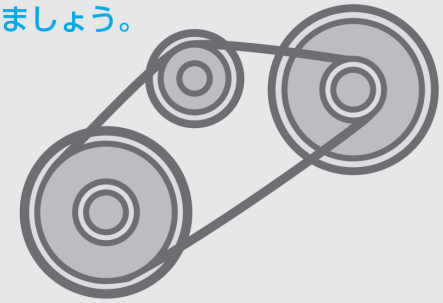
冷却系

海水ポンプインペラの損耗に注意しましょう。

海水ポンプインペラは定期的に交換しましょう。
船外機の場合、検水口からの水の出方が悪くなります。



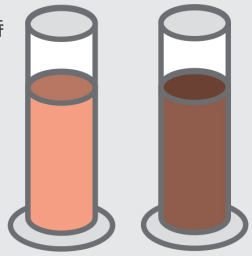
Vベルトの張り具合、摩耗、ひび割れなどを点検しましょう。



機関系

エンジンオイル・ギヤオイルの量と状態を点検しましょう。

ギヤオイル点検時
白濁していたら、
修理が必要です。



コントロールケーブルの操作力、がたつき、錆びなどを点検しましょう。

ケーブル露出部の割れ、錆び。



定期交換時期

下記は目安です。詳しくは、搭載機関の取扱説明書に従いましょう。

ディーゼルエンジン

燃料フィルタエレメント	200 時間毎
エンジンオイル	200 時間毎
オイルフィルタ	200 時間毎
冷却水	600 時間毎
防食金属	半減したら交換
Vベルト	異音、摩耗等必要に応じ交換

船外機

燃料フィルタエレメント	200 時間又は 2 年毎
エンジンオイル	100 時間又は 6 ヶ月毎
オイルフィルタ	200 時間又は 2 年毎
ギヤオイル	100 時間又は 6 ヶ月毎
防食金属	半減したら交換
ウォーターポンプインペラ	1 年毎

共通

バッテリ	3 年毎
コントロールケーブル	2 年～5 年毎（使用頻度による）

（一社）日本マリン事業協会 Japan Marine Industry Association
日本小型船舶検査機構 Japan Craft Inspection Organization
国土交通省
JCG 海上保安庁